

貧困・苦境児童を支える

FOREST EYE ACTIVITY LETTER

年次報告書

2015



FOREST
Bless to you ...



CONTENTS

- 01. MISSION / VISION / CORE VALUE
- 02. CONTENTS
- 03. 団体概要
- 04. ごあいさつ
- 05. 国内事業
- 13. 海外事業
1st Project
- 17. 会計報告

MISSION

- ・ 現在(いま)を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

VISION

- ・ どんな子どもたちにも平等に夢を
- ・ どんな子どもたちにも未来への希望を
- ・ どんな子どもたちにも無限の可能性を
- ・ どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

CORE VALUE

- ・ 子どもたちの可能性を大切にします
- ・ 人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
- ・ 自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
- ・ 最善の方法を常に探求します

特定非営利活動法人 FOREST
年次報告書
2015
FOREST EYE
ACTIVITY LETTER



- 少年が手に持ち
口にしてる袋とは -

車から降りようとした時、一人の男の子が私たちの車のドアを開けてくれました。彼は黄色い液体の入ったビニール袋を持っていました。そして彼はその袋を口と鼻に当て、臭いを嗅ぎ始めました。これはカンボジアで良く見かける子ども達の光景になります。この黄色い液体の正体は薬物ではありませんが、木の樹液が入っています。その樹液の臭いを嗅ぐと空腹感が軽減されるそうです。こうした子どもたちは食事を満足に取ることが出来ず、空腹を紛らわせるため身体に害が有るかもわからない、この樹液を嗅いでいます。カンボジアには、未だこうした子どもたちがたくさん存在しています。

団体概要



世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest(フォレスト)は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、生まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないように、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forestは、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。

そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

本部：〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西7丁目12-6

支部：〒8150-042 福岡県福岡市南区若久6-24-8

T E L 011-272-7716

F A X 011-272-7715

E-MAIL info@forest-japan.org

W E B http://forest-japan.org/

設 立 日	2013年12月3日
法 人 設 立 日	2014年4月8日
代 表 理 事	小野塚 舞
理 事	用川 則幸 / 町田 武文 賀来 友麻 / 岡部 憲幸
監 査	植西 圭

ごあいさつ

2015年度も皆さまからのあたたかいご支援を頂きまして本当にありがとうございました。

前年の2014年度はNPOの信用問題に関わる残念なニュースが多く報道されましたが、そんな中でも私たちの活動内容の必要性に共感を下さいました皆さまのお力添えで少しずつではありますが、孤児院支援にむけて、前へ進めて行く事が出来ました。

2015年度は、1stプロジェクトであるカンボジアの孤児院運営開始に向けて現地スタッフやパートナーと共に準備を進めて参りましたが、文化や法律、基準等の違いから中々思うように事が進まず苦しい1年となりました。

国内事業では、チャリティイベントを通じ児童養護施設の子どもたちに対し芸術や社会活動の参加を通じて支援が実施出来たこと、そして沢山の方とのお縁を頂けた事は何よりの実りとなりました。国内外を問わず、苦境を強いられている子どもたちのために『キッカケ』や『チャンス』『笑顔』の場所を提供することが出来るよう、これからも私たちに出来る事を一つ一つ進めて行きたいと思っております。

2016年度はカンボジアの孤児院運営にとって今後の基盤となる大切な1年となります。2016年も応援をよろしくお願い致します。

国内事業

JAPAN

CORPORATE PUBLICITY FOREST GUMP



CORPORATE

今期は国内での支援をスタートするにあたり、赤い羽根共同募金様やモエレ沼芸術花火開催委員会様、そして各講師の方たち等、様々な分野でご活躍されている方たちをご紹介頂けた1年となり、各分野で共同し支援活動を一歩進める事ができました。こうして沢山の方のご協力や支えを頂けていることに感謝の気持ちを忘れずに、来期も共同で出来る支援活動の充実化を目指し、進めて参りたいと思います。

PUBLICITY

ポスターはホームページでお世話になっているニボーさんにご協力を頂きました。そして缶バッジは赤い羽根共同募金さんとのコラボレーションで制作させて頂きました。この缶バッジは制作することで就労支援にも繋がるという素敵な仕組みとなっております。今年度はチャリティイベント等にご参加頂き募金頂いた皆さまへ配布致しました。ポスターも缶バッジも今回は初めての制作となりましたが、まずは、私たちのロゴやイメージを知ってもらい、そしてフォレストのロゴを見て、「フォレストのロゴ=子供たちの支援」と結びついていくことが出来るよう今後も活動を続けていきます。



みなさまの支援を、より多くの子どもたちに。



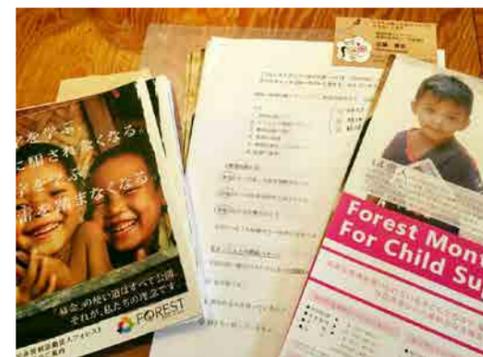
【オリジナルポスター＆
缶バッジ完成】
どうしたらより多くの人の目にフォレストの活動が目に入るのだろう…。その思いから、今回はより多くの方にフォレストの事をもっと知ってもらい、支援の輪を広げるため、各企業様にご掲載頂くオリジナルポスター。そして、チャリティイベント等の行事で募金にご協力下さった方たちにお渡しする缶バッジを制作しました。



FOREST GUMP ~学びの森~

一期一会を大切に、楽しみながら、学びながら、支援に繋ぐ。

フォレストガンブでは、サポート企業様を中心に講師をお迎えし、様々な学びを通して企業様と個人の皆様とを結ぶ一期一会の場のご提供をすること。そして、定期的な開催をすることで集まった収益をカンボジアの孤児院の運営資金として活用する事を目的とし、6月に第1回目を開催致しました。1年目の成果としては、フォレストの団体趣旨を知って頂く機会が増えた事で支援の輪を広げる事ができたこと、また開催後日も講師の方と参加者の方、それぞれの縁を繋げる機会となったこと、そして講師の方もチャリティイベントに携われた事に喜びを感じて頂いたイベントとなれた事等が挙げられます。反省点としては開催場所の確保や開催にあたり、参加募集のPRが弱かった事、そして何よりも定期的な開催が出来なかった事が挙げられます。来期はこういった点を改善し、学びを通じた参加のしやすいチャリティイベントを継続して行きたいと思っております。



【開催内容】

- 第1回・・・「This is a pen.」がわかれば英語は話せる! vol.1
- 第2回・・・「This is a pen.」がわかれば英語は話せる! vol.2
- 第3回・・・尾関プロトレーナーの親子でできる運脳教室
- 第4回・・・魅力的に写す写真の撮られ方講座
- 第5回・・・片付けスイッチオン! 今日から変わる お片づけカフェ

国内事業

JAPAN

SNS

CHARITY

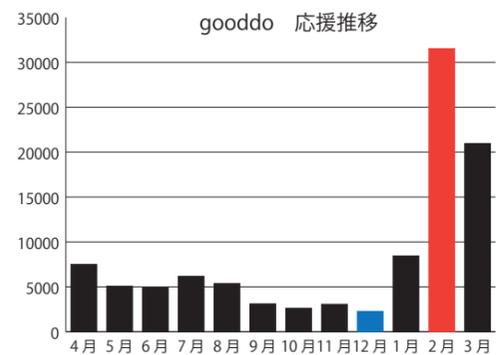
CHARITY-EVENT



gooddo

昨年10月下旬から「クリック（応援）」をやるだけで「支援」に繋がるソーシャルプラットフォームフォレストも参加させて頂く事となり、1年以上が経過致しました。参加当初のクリック状況は安定しており、年度末には5万人の訪問者を超えるなど、フォレストにとっても大切な支援ツールの1つとなっておりますが、月日の経過と並行してクリック状況も低下が進み、日々の生活の中の習慣として取り組んでもらう事の難しさを感じました。また、活用方法が分かりづらいと言ったお声も頂き、今後の説明の仕方にも課題が残りました。しかし、今までこういった気軽に始められる支援ツールがなかったため、来期もこの支援ツールを大切に、説明の改善を図り、より多くの方の習慣化を目標にすすめていきたいと思っております。

昨年10月下旬から「クリック（応援）」をやるだけで「支援」に繋がるソーシャルプラットフォームフォレストも参加させて頂く事となり、1年以上が経過致しました。参加当初のクリック状況は安定しており、年度末には5万人の訪問者を超えるなど、フォレストにとっても大切な支援ツールの1つとなっておりますが、月日の経過と並行してクリック状況も低下が進み、日々の生活の中の習慣として取り組んでもらう事の難しさを感じました。また、活用方法が分かりづらいと言ったお声も頂き、今後の説明の仕方にも課題が残りました。しかし、今までこういった気軽に始められる支援ツールがなかったため、来期もこの支援ツールを大切に、説明の改善を図り、より多くの方の習慣化を目標にすすめていきたいと思っております。



【WEB】 <http://gooddo.jp/gd/group/forestjapan/>

CHARITY-SPORTS

「楽しい」を支援に繋ぐ

8月11日、フォレストの第二回チャリティゴルフコンペを開催致しました。
今回は参加人数も大幅に増え、フォレストにとっては初の大規模なイベントとなりました。また、プロとして活躍されているゴルフの方にもご参加頂くなど様々な方がご参加下さいました。元々、スタッフ全員がプレー経験やゴルフコンペの運営経験に乏しく、準備期間中開催日当日も不安と緊張の中で動いていました。当日は慣れない中での対応にご迷惑をかける事も沢山あり、受付・表彰式までの全ての工程において反省、改善しなければならぬ点が多々見られました。また、大きな要因の一つとしては、スタッフ不足も挙げられ、人数規模に見合ったスタッフの確保も今後の課題となりました。
今回のチャリティゴルフコンペではたくさんの方の協賛を頂き、賞品や参加賞なども充実できたため、参加者のみなさまには非常に喜んで頂いたゴルフコンペとなりました。

ONE PIECE FOR PEACE

あなたの piece があの子の peace へ繋がるを合言葉に昨年6月より ONE PIECE FOR PEACE プロジェクトがスタート致しました。今期は既にご参加・ご協力頂いている企業様がメインとなり、合計 25,100piece 集まりました。また、前年度から計画が進んでいた札幌大成さまの ONE PIECE FOR PEACE が印字されたお歳暮ギフトが各スーパーに陳列されました。



沢山の企業様やプロゴルファーの河野晃一郎プロ、塚田陽亮プロ、内藤寛太郎プロ、山内慎介プロにも協賛を頂き、参加者の皆さまにも喜んでもらえる素敵な表彰式となりました。

【開催内容】

開催日：2015年8月11日
参加人数：89名
会場：ハッピーバレーゴルフクラブ
チャリティ金額：108,310円

国内事業

JAPAN

CHARITY-EVENT



社会教育・健全育成の推進Project

モエレ沼芸術花火 2015 で子供たちの笑顔と心に残る思い出を。

ひとり親家庭や家族と共に生活をする事が出来ない子どもたちは、イベント等の参加が難しい状況を抱えています。そんな状況を抱えている子どもたちに私たちが出来る事はないだろうか。今回の支援はこうした気持ちから誕生しました。私たちは赤い羽根共同募金さま、モエレ沼芸術花火2015実行委員会の皆さまにご協力をお願いしました。モエレ沼芸術花火は近距離で打ち上げられる花火の迫力や演出はもちろん、会場の雰囲気等、細部に至る所まで芸術で溢れています。音楽と融合し色とりどりに打ちあがる芸術的な花火や、開催に携わる沢山の方の熱い想いに触れてもらう事で、子供たちの思い出作りのお手伝いや笑顔を生み出したいと、札幌市児童養護施設柏葉荘の子ども達25名を招待しました。前年度は活動拠点である札幌の子どもたちのための活動が出来ず来期こそはと考えていたため、実際に子どもたちと触れ合い、笑顔を見る事ができフォレストでは新たな支援のスタートができた年となりました。

社会活動体験を通じ、社会との繋がりを保持する。



モエレ沼芸術花火 2015 で打ち上げられた花火のガラやゴミを回収し、元の綺麗な公園に戻すため「日本一楽しいゴミ拾い」に柏葉荘の子どもたちと一緒に参加しました。ボランティアとして参加することで、大きなイベントの表側やそれを支えるために裏側で多くの人達が一生懸命に動いている事を「社会勉強」の一環として体感してもらうための活動でしたが、子どもたちそれぞれがチームを作って回収量を競い合ったり、ゴミ拾いが更に楽しくなるよう、どんなことにも工夫し一生懸命に取り組む姿勢を感じ取る事が出来ました。



児童養護施設柏葉荘にて招待の贈呈式を行いました。式には赤い羽根共同募金事務局次長の成田様、モエレ沼芸術花火 2015 副開催委員長の佐藤様からもお話を頂き、子どもたちへ招待の趣旨を伝えてきました。



初めて間近で見上げる大きな花火が打ち上がり、そのたびに子どもたちから歓声が沸いていました。終了時には「楽しかった!すごい綺麗だった!ありがとうございます!」と嬉しい声を子どもたちから頂きました。



お楽しみ抽選会では、プロサッカー選手のシューズ等もあり子どもたちは大興奮。真剣に番号が呼ばれるのを聞いていました。解散時には「一生懸命やりすぎてお腹ぺこぺこ!ゴミ拾いなのに楽しかった!ありがとう!」という声を貰いました。

国内事業

JAPAN

CHARITY-EVENT



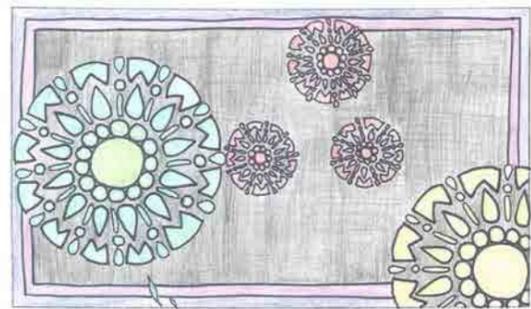
お手紙の内容紹介

【中学校1年生 女子より】

今回、モエレ沼芸術花火に招待していただきありがとうございました。私が思っていた以上にすごかったです。とてもきれいで、すごく感動しました。機会があれば、来年も見に行きたいです。今回は本当にありがとうございました。

【高校2年生 女子より】

この度は、モエレ沼花火大会に招待していただき誠にありがとうございました。初めてモエレ沼の花火大会を見て、音楽と花火の上がるタイミングが一緒にその瞬間鳥肌がたち、とても感動しました。花火の色も様々で一尺玉の大きな花火は生まれて初めて見て、想像よりも大きくてびっくりしました。次の日のゴミ拾いでは、世界一楽しいゴミ拾いということもあり、とても楽しみながら参加することができました。お菓子なども頂き、とても嬉しかったです。今回の花火大会とゴミ拾いに招待して頂きとても貴重な体験と素敵な思い出を作ることができ、とても嬉しく思っています。本当にありがとうございました。



心	行	機	い	む	と	は	と	は	今
が	今	会	下	が	う	指	今	日	日
い	回	た	が	が	が	待	回	名	前
ま	は	あ	す	た	思	か	し	毛	工
し	本	下	れ	い	で	い	て	り	王
た	当	す	が	く	す	て	ま	り	し
に			飛	い	し	た	し	沼	芸
	あ	来	動	と	た	だ	さ	術	花
	り	年	し	で	以	ま	さ	術	火
	が		も	ま	も	上	あ	花	火
	と	見	し	き	に	り	花	火	火
	う	に	た	れ	す	が	火	火	火

※頂いたお手紙例_モエレ沼芸術花火の様子も描いてくれました。

柏葉荘では1歳から18歳までの100名近くの児童と一緒に生活し、年齢や性別及び性格に合わせた楽しみの工夫をしているのですが、予算の関係上、皆で一緒に楽しめる行事を頻繁に行うことはなかなか難しいそうです。また、私たちのこうした活動が子ども達にとっては「誰か」が「自分のために」「何かを」してくれて「気に留めていてくれる」そうした事が目に見える形でわかる心温まるプレゼントに繋がるということを柏葉荘の小川理事長から頂いたお手紙で再確認することが出来ました。子ども達が大人へと成長して行く過程の中で大切になる体験や経験の差は生まれ育つ環境や境遇によって異なります。フォレストでは今後もこうした活動を続け、子ども達に芸術や沢山の人の想いに触れてもらい、成長するための一つの糧にしてほしいと考えています。

物品支援

今回、私たちはチャリティ支援の一つとして児童養護施設札幌育児園さんに物品支援を行うため訪問させて頂きました。その際、施設長の千葉さんからそのようなお話を聞かせて頂きました。児童養護施設の現状としては、先進国の日本であっても、施設や子どもたちに対する支援や保障内容は十分に足りておらず、まだまだ支援を必要としていること、生まれた環境によって大きなハンデを子どもたちが背負わなければならないということです。これらの現状を踏まえこれから私たちに出来る事を進めて参りたいと思います。

児童養護施設で生活を送る子どもたちは、進学や就職を機に退所する際、保証人や資金面の問題が原因で賃貸住宅の契約や敷金、学費等の捻出等、最初から大きなハンデを背負わなければならない子どもたちが多く存在しています。



【贈呈式の様子】

今回は育児園の子どもたちにDVDレコーダーを寄贈致しました。



【Christmas card】

育児園の職員の方、そして子どもたちから手作りのクリスマスカードが届きました。



【Christmas present】

柏葉荘の子どもたちにもゲーム機とゲームソフトを寄贈致しました。

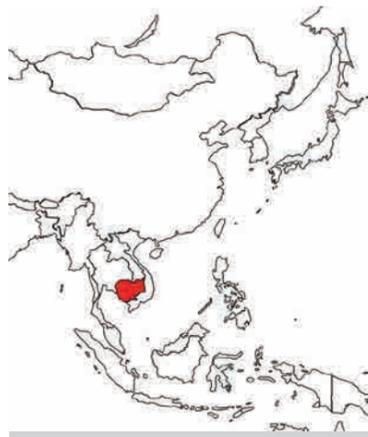
2015年 国内事業総括

第一期では、経験不足や情報不足から、海外事業のカンボジア孤児院支援や、そのための資金集めに重点を置きすぎたため、国内でのイベントや支援事業を進める事が出来なかったという不甲斐ない思いがありました。そのため、来期は国内での事業活動や支援活動のスタートも目標としていたため、福岡や札幌でのイベントの開催や児童養護施設への支援を実施出来た事はフォレストにとって、一歩進めた一年となる事が出来ました。しかし、チャリティゴルフやフォレストガンプのイベントでは反省点や改善点も多く残りました。来期はイベントに参加下さった方に「自分も支援に参加している」と実感してもらえようにもっと工夫して行かなければならないと感じました。来期はこうした国内での活動を継続し、そして回数を増やして行くことで少しでも多くの子どもたちに繋がる支援を行う事を目標にしていきたいと思えます。

海外事業

1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



子どもたちの 教育・健康・成長が守られる
成長支援活動

世界では、保健・教育・生活水準のうち2つ以上に欠乏を抱えた人々(多次元貧困人口)が約15億人いるとされています。この中にはもちろん境遇により生まれた時から貧困であった子どもたちも存在しています。そのような状況下で暮らす子どもたちの「教育・健康・成長」を守るため2014年5月、成長支援活動としてフォレストでカンボジアの孤児院を支援する事が決定し、支えて下さる法人様や個人の皆様のお蔭で今期、第一弾の支援がスタート出来るまでに至りました。

孤児院支援



2015.11月、これから支援を行う子どもたちと対面するためカンボジアを訪問してきました。子どもたち16名とお母さん役のマナビー先生とお姉さんのパサビー先生、現在ボランティアで来て下さっている日本人の粥川さんにお会いすることが出来ました。今回お会いした子どもたちは6歳～15歳の子供たちになります。私たち子どもたちも先生もみんなで自己紹介を行いました。カンボジアは基本的には自己紹介といった風習がなく、生まれて初めての自己紹介に子どもたちはとても緊張していました。

現地の業者に依頼した支援企業様のプレート子どもたち一人一人に持って貰いながら記念撮影を行いました。日本では時間や期限の厳守は当たり前の事ですが、カンボジアでは2週間前・1週間前・4日前・2日前・前日と期限の進行状況に問題が無い旨の確認が取れていた場合でも期限当日に完成していない(スケジュール通りに進まない)という事態が当たり前のように派生します。また、日本では常識的な事であってもカンボジアではそれが通用しない事も経験し、今期はカンボジア企業との付き合い方や交渉方法等、多くを学びました。



昔ながらの日本の遊びを体験

渡航前にご支援頂いた駒やフォレストガンプ等で集まった収益を活用させて頂き、日本の昔ながらのおもちゃを子どもたちにプレゼントすることが出来ました。最初は緊張してた子どもたちも徐々に打ち解ける事ができ、好奇心旺盛な子は様々な種類のおもちゃで遊んでいました。手先が器用な子が多く、折り方は日本語と英語のため、図を見ながら真剣に折っていました。また「支援した物を実際に子どもたちが手にしている写真を見ると、とても身近に感じ、気持ちが温くなりました。」というお声も頂きました。今後は、沢山の方に繋がっていると実感することの出来る支援を増やしていきたいと思えます。

スロプレインノップ小学校訪問
今回は文房具と掛け時計の寄贈を行いました。カンボジアでは学校数が足りてないばかりか、教員不足に加えて教員の知識不足が問題となっていました。そのため授業は午前・午後の2部制に分かれ、子どもたちは少ない時間の中で勉強をします。また、授業料を払えないため教室には入れず、教室の外で授業を聞いている子もいました。こうした状況は今後の知識や貧富の差を生み出す原因にもなるため、少しでも多くの子供たちが学校へ通えるようにフォレストとしても支援内容を構築し進めていく必要があると感じました。



海外事業

1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



カンボジアでは未だに生後間もない赤ちゃんがそのまま孤児院前に置き去りにされるケースが発生しています。今回、私達の友人でもあり、通訳をしてくれたユン（仮称）からガイドや通訳の仕事に就いた経緯や生い立ちをお聞きしました。

沢山の兄妹に囲まれ生活していたユンですが、農業を営んでいた父を幼少期に地雷の被害で亡くし、それから家族の生活は一変したそうです。お洋服も1年に1度買ってもらったものを大切に着ていました。しかし、母だけの収入では生活が出来ないため、ユンは遠縁に預けられる事になりました。何日も山道を歩き夜は近くの民家にお願ひし寝かせてもらいながら遠縁を目指しました。そしてユンは家事手伝いをする事を条件にそこで生活を始めます。まだ小さな子どもで出来る事は限られていたけれど、一生懸命頑張りました。勉強はしたかったけれど、もちろん学校には行かせてもらえませんが、沢山の月日が流れ、それでも学校に行きたくて勉強したいという気持ちが変わる事はありませんでした。ある日、

孤児院「仁舟」について

1st プロジェクトとして孤児院仁舟の運営スタートに向け準備を進めて参りましたが、11月にフォレストの理事数名がカンボジアに行き、現地にいるフォレストのスタッフと共に、孤児院に入所する子どもたちと、カンボジアの名誉領事をお迎えし、開所式を行い無事対面を終える事が出来ました。シアヌークビルの施設での子どもたちの受け入れは、前述した「日本とは違う文化や法律の壁」により、まだこれから多少の時間がかかりそうですが、仁舟のプノンペン施設では、開所式に対面した子どもたち18名がフォレストの経済的支援により、現在元気に暮らしています。



日本の支援で孤児院が建てられたと耳にしたユンは親戚に黙って一人で孤児院を目指します。そして門前にいた関係者に、ここで暮らしたい！勉強がしたい！と一生懸命にお願いをしました。関係者の方が日本側に掛かってくれたお蔭もあり、ユンは日本の孤児院に入れる事が決まり、それから7年間、孤児院で生活を送る事が出来ました。最後にユンは「日本の支援があったから現在が食べられる事も学校に通い勉強をすることも、そして日本語を教えることも出来なくなりました。ユンは一生懸命日本語を勉強し沢山の言葉を覚えました。そして今、日本語を使う仕事で、生活をする事が出来ています。現在はもっと日本語を勉強したい仕事を本格的に始めたいです。最後にユンは「日本の支援があったから現在の私がいる、あの時孤児院が出来なければ私は勉強することもできませんでした。私は日本の皆さんに助けられたことを忘れません。だから同じ境遇の子供たちが少しでも救われるように私も出来る事をしたい。」と話してくれました。

2015年 海外事業総括

第一期では、皆さまのご支援により、支援のスタートが出来るまで段階を進める事が出来ましたが、子どもたちを受け入れるための、認可取得の手続きなど日本とは違う文化や法律の壁が大きく立ち上がり、運営の支援をスタートするには様々な想いや葛藤もあった非常に苦しい一年となりました。しかし、これらの経験から物事の考え方や捉え方、価値観など、国や人の数だけ存在する中で、受け入れなければならぬ所や受け入れてもらわなければならない所など、双方の意見を取り入れながら進めて行くことの大切さも改めて学ぶ事が出来ました。また、今回は支援者の皆様へ情報の配信や共有が少なかつたため、来期はご支援頂いている沢山の方向にカンボジアの孤児院の様子や、子どもたちの生活風景をお届けし、子どもたちとの繋がりをもっと身近に感じて頂けるよう、定期的にレポート等で状況をお知らせし、改善を図りたいと思います。



FOREST
Bless to you ...